グランドメゾン代沢

窓 光 その向こうに見えるもの。

今、あなたがいらっしゃる部屋の「窓」。
その「窓」からは、何が入ってくるでしょうか。
太陽の輝き、明るさ…「光」。
空、美しい自然、住み慣れた街の景色…「風景」。
心地よくそよぎ、季節を感じさせる…「風」。
部屋と屋外がつながり、広いと思える「開放感」も。
しかし、そんな窓も、良いことばかりとは言えません。
風や光よりも、騒音や暑さが気になることもあるでしょう。
窓は、良くも悪くも、住み心地に大きな影響を与えます。
窓に求められる要素は、立地環境によってもかわります。
グランドメゾンでは、
「窓が、住まう人に、
心地よさをもたらしてくれる存在となるために」
その地、そして住まい手、それぞれにとっての
「最もよい窓」を追求しています。
今回は、そこに込めた想いと工夫を、お話しします。

ProjectMember　東京マンション事業部

設計
課長　一級建築士
松本 孝之

設計
課長　一級建築士
高津 正

営業
課長代理　宅地建物取引主任者
丸本　和治

外部空間と連続する、大きな窓

ひとくちに「窓」と言っても、その大きさも形もさまざまです。大きな窓と小さな窓では、その印象も全く異なります。

「周囲の風景をそのままリビングに取り込みたいときは、やはり、大きな窓をつくって、風景を満喫していただきたいですね」（丸本）

外からの視線を気にする必要がない高層マンションでは、大胆に大きな窓を設計することができます。タワー ザ 上町台では、まるで景色の中に浮かんでいるような感覚を愉しむ、開放感にあふれるリビングが生まれました。また、グランドメゾン（以下、GM）大濠テラスでは、バルコニーへの連続感を大きな窓で表現しています。

「高層マンションではなくても、バルコニーがあれば、外からの視線を遮ることができます。GM武蔵野では、リビングがバルコニーとつながって一体空間に感じられるように、できるだけ窓を大きく取りました」（高津）「GM吉祥寺コートでは、リビングとバルコニーを連続した空間として感じていただきたかったので、窓による空間の仕切りを『意識させない』ように、できる限り細い窓サッシにし、室内とバルコニーの床の高さをぴったりと合わせて、つながった感覚を損ねないように気を配りました」（松本）

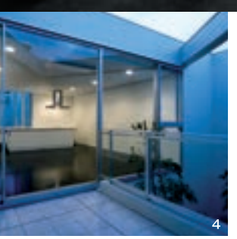
空間同士をつなぎ、感覚としての広さを拡げていくことができるのが、「大きな窓」の魅力と言えるでしょう。

1

2

3

4


4

1.タワー ザ 上町台　大都市の眺望を手にする喜び、その景色の中に浮かんでいるような開放感を得られる。

2.GM大濠テラス　バルコニーは、リビングの延長としてつながって感じられる。

3.GM武蔵野　大きな窓によってリビングにとりこまれたバルコニー

4.GM吉祥寺コート　リビングとバルコニーを仕切る窓は、存在を主張しない、できるだけ細いものにすることで、内と外の境界を感じさせない。

グランドメゾン西九条BIO

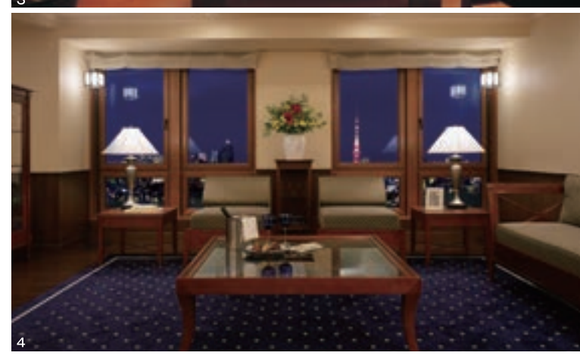
インテリアとしての、小さな窓

「大きな窓」は魅力的ですが、短所もあります。

「窓が大きいと、壁の量が減る、ことも事実です」（丸本）

「高層マンション等で『大きな風景に囲まれながら、部屋の中央に家具を置く』スタイルは別として、家具は一般的には安定感のある壁を背にして置きます。ある程度壁量をキープして、窓の大きさを調整します」（高津）GM吹上では、ソファの背の高さまで壁をつくって窓を設計しています。

「立地によって窓から入る暑さや視線が気になる場合は、積極的に小さな窓を設計することも多いですね」（松本）小さい窓ならではの価値、魅力があるのです。「小さな窓には、『額縁』のように風景を切り取る効果もあります」（丸本）大きな窓では、風景がそのまま目に入りますが、小さな窓では、風景が効果的に絞られ、絵画のように見えます。「インテリアのアクセントにもなるので、形や配置にこだわりますね。GM南青山では、縦長プロポーションの窓を配し、印象的なリビングをつくりました」（高津）



額絵としての窓では、額縁のデザインも大事。インテリアとしての『見え方』へのこだわりです。「例えば、GM石神井公園パークフロントでは、あたたかみのある木質感をインテリアの基調としています。その空間をつくる要素として、窓サッシも木質デザインにしました」（高津）青山ザ・タワーでも、重厚感あるインテリアテイストに合わせ、クラシックな木質額縁をデザインしています。

プライバシーを保ちながら光を取り込む

窓は、外の環境と建物との接点と言えるところ。外の環境によって、窓の設計も異なります。「『こく』一般的な考え方として『リビングは南向きで、南に窓を』『外からの視線が気になるところでは窓はあけずに壁に』ということがありますね」（松本）ところが立地によって、この一般的な考え方で設計するのが難しいときがあります。例えば、南側リビングが難しい立地…。「GM東伏見は南北に長い敷地で、南面間口が小さいため、南向きリビングの間取りだけでは無理がありました。逆に、東面、西面はゆったりしています。そこで、南向きにこだわらず東向き、西向きのリビングで広々と暮らすスタイルがあるな、と気づいたんですよ」（松本）一般論ではなく、その環境、想い描く住まい手像に合わせたベストを考えるグランドメゾンならではの発想です。

GM三軒茶屋プレイスでは、南向きリビングの難しさに加えて、隣地からの視線も迫っていました。「GM三軒茶屋プレイスは、南北に長い敷地の上、西隣にはビルが建っています。南向き住戸には無理があり、西向きに窓を設けると室が丸見えになってしまう、という状況でした。そこで生まれたのが、三角形の窓だったんです」（高津）三角形にすることで、南北両方から光が入ります。北側に対しては、不透明のガラスブロックで視線を遮りました。プライバシーを守りたい、しかし採光は確保したい、という想いを両立しています。

「完成すると、想像以上に明るく、ガラスブロックならではの柔らかな光に包まれた空間になりました。限られた条件の中で生まれたアイデアが、新しい空間演出につながりました」（丸本）ガラスブロックを通すことで光が均一化、時間とともに変化する『光の壁』となっています。朝はソフトに白く、夕暮れはほんのりと赤く、そして夜は室内の照明に影響を受けて、一面のダークブルーに。「もし、窓を設計しやすい周辺環境だったら、この三角スペースも、こんなに個性的なリビングも実現しなかったでしょうね」（高津）

愛される窓辺へ

室内に、さまざまな効果をもたらしてくれる窓。これから先は、どのように変化していくのでしょうか。

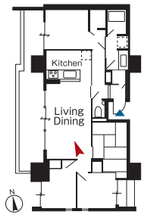
「その土地、立地の環境の良いところを、最も効果的な形で室内に取り入れる工夫を重ねていく、という姿勢は、これまでもこれからも変わらないですね」（丸本）「ただ、もっと窓のある空間、窓のある時間を愉しんでいただくための技術は、進歩していくでしょう」（松本）

省エネ、エコという時代のキーワードも関わってきます。

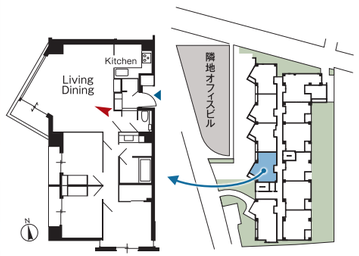
「例えば、遮熱断熱ペアガラスやエコガラス。これは、『断熱性能を高めて、エアコンオフなど、省エネを達成しよう』という環境保全アイテムです。一般的なガラスに比べて、夏でも、室内の温度上昇を抑えてくれるんですね」（高津）「一般的なガラスだと、せっかくの大きな窓も、夏にはその窓から熱が入ってきて暑く、窓辺の居心地がいまひとつ…といったことになる可能性もあります。断熱効果の高いガラスがあることで、一年中、快適な窓辺を愉しむことができるようになりますよね」（丸本）技術とともに、窓辺の愉しみの選択肢が広がっていくようです。

「窓」は、窓自体の設計が目的ではありません。外の景色、光、広がりや明るさを、室内にどのように取り入れるか。それこそが、窓の設計です。それぞれの土地に、それぞれの光。そこでしか見られない風景をインテリアとしてリビングに届けてくれる「窓」。

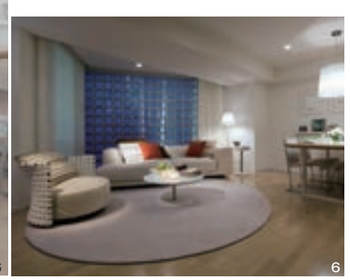
グランドメゾンは、より豊かで、価値のある暮らしを描き続けてまいります。その窓の向こうに…。



5.GM東伏見
敷地の形状、隣地の建物との関係といった環境を考慮。南向きにこだわらず、居室の広さをゆったりと確保できる東向き（西向き）のリビングを計画。アイデアと工夫で、居心地のよい住空間を実現した。



6.GM三軒茶屋プレイス
南北に長い敷地、さらに西側の隣地にはオフィスビルが迫る。三角形の窓という独創的な発想で、プライバシーの確保と、採光とを両立した。採光だけでなく、外の光によって表情を変える、個性的な窓となっている。



1.GM吹上
窓からの景色や間取りから家具のレイアウトを想定。ソファのベストポジションに合わせ、腰の高さまで壁を残して窓を設計した。

2.GM南青山
住空間における窓自体のデザイン性を重視。縦長プロポーションの窓を3つ並べて配することで、印象的な空間に仕上げている。

3.GM石神井公園パークフロント
木質のサッシを採用した窓。窓越しに見える公園の借景は、四季折々の美しさを映し出す一枚の絵画として目を楽しませる。

4.青山ザ・タワー
空間全体のインテリアコーディネートと調和するクラシカルなデザインの窓。サッシの意匠性が、空間演出の重要な要素となっている。